

LGBTの学校生活に関する実態調査(2013) 結果報告書

2014年4月29日

いのちリスペクト。ホワイトトリボン・キャンペーン

1. 本調査の目的

国内におけるLGBTの学校生活に関する調査は依然として少ないため、多数の当事者の体験を集め、今後の望ましい施策を検討する上での基礎資料を得ることを目的として、本調査を実施した。

2. 本調査の方法

2013年10月28日から12月31日までの約2ヵ月間、インターネットの無料アンケートサイト「Cube Query」を用いてLGBTの学校生活に関する実態調査を行った。スマートフォン、PCから回答できるようにし、同一人の重複回答を避けるためひとつのIPアドレスから1回しか回答できないよう制限をかけた。質問内容は選択式で全20問、調査票および単純集計は巻末資料のとおりであった。調査の広報は、実施団体である「いのちリスペクト。ホワイトトリボン・キャンペーン」のブログの他、ツイッターやフェイスブック、また各地のLGBT団体等にも協力依頼し、そのメーリングリスト等を用いて行った。また本調査は平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業の一環として実施され、金沢大学人文学類の岩本健良准教授に多くの助言をいただいた。

3. 本調査の対象者

以下の3つの条件すべてに当てはまる者を対象とした。

- 1) LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー・性同一性障害など）当事者、およびそうかもしれないと思っていること*¹
- 2) 2013年末時点で10歳～35歳であること
- 3) 小学生から高校生の間、主に関東地方（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）で過ごしたこと

*¹LGBT当事者、およびそうかもしれないと思っていること

A) 性的指向について同性/両性に向いている、もしくは分からないと回答した者

B) 生物学的性が男性または女性で、性自認が生物学的性と一致していない者

のいずれかに該当する者をLGBT当事者とみなした。生物学的性が「どちらでもない」と回答した3人、および性的指向を無性愛と回答した者のうち生物学的性と性自認の一致する10人については人数が非常に少ないため今回の分析では除外した。無性愛と回答した者のうちB)の条件に合致する者は、LGBT当事者(トランスジェンダー)として扱った。

アンケートサイトから 835 名の回答を得たうち、上記の条件に合致した回答者 609 名について分析を行った。

4. 調査結果

前項の条件に該当した全 609 名について集計を行った結果は下記のとおりであった。

1) 回答者のジェンダー・セクシュアリティ

表 1 の分類方法に沿って「非異性愛男子」、「非異性愛女子」、「性別違和のある男子」、「性別違和のある女子」と定義付けを行った。いわゆる MTF,MTX または FTM,FTX の場合には生物学的性には違和感があり、それぞれ男性/女性という表記を望まない当事者も多いが、今回は学校内でそれぞれ男子/女子として扱われる場面が大半であることを考慮して、このように表記することとした。

人数の内訳は、非異性愛男子が 154 名、性別違和のある男子が 65 名、非異性愛女子が 210 名、性別違和のある女子が 180 名であった。調査にあたってはレズビアンを公表しているタレントによる呼びかけ協力を得た結果、非異性愛女子からの回答が最多となった。一方で、性別違和のある男子からの回答が 65 名と比較的少数となった。

(表 1) 回答者のジェンダー・セクシュアリティの分類

生物学的性	性自認	性的指向	分類
男性	男性	同性愛(レズビアン、ゲイ)	非異性愛男子 (154 名、25%)
		両性愛/全性愛(バイセクシュアル / パンセクシュアル)	
		わからない	
	女性	性的指向は問わない	性別違和のある男子 (MTF, MTX 65 名、11%)
その他			
わからない			
女性	女性	同性愛(レズビアン、ゲイ)	非異性愛女子 (210 名、34%)
		両性愛/全性愛(バイセクシュアル / パンセクシュアル)	
		わからない	
	男性	性的指向は問わない	性別違和のある女子 (FTM, FTX 180 名、30%)
	その他		
	わからない		

2) 回答者の年齢

回答者の 2013 年末時点での平均年齢は 22.9 歳で、学校での体験がまだ記憶に新しい層から回答を得ることができた。また 10 代の当事者 169 名を含む回答があった(表 2)。

(表 2) 回答者の年齢

	回答者数(名)	全体に占める割合(%)
10 歳～14 歳	5	1%
15 歳～19 歳	164	27%
20 歳～24 歳	252	41%
25 歳～29 歳	105	17%
30 歳～35 歳	83	14%

3) 小・中・高校時代の主な居住地

東京都 198 名(33%)、神奈川県 143 名(23%)、千葉県 92 名(15%)の順で多く、関東圏における各自治体の人口比とほぼ一致した。

4) LGBTであるかもしれない気がついた年齢

自分が LGBT であるかもしれない気がついた学年については、非異性愛男子、非異性愛女子および性別違和のある女子の場合には中学 1 年生～中学 2 年生が最多で、小学 6 年生～高校 1 年生の期間に自覚したと回答した者が約半数であった。いわゆる思春期においてジェンダー・セクシュアリティについての自覚がなされていることがうかがえる。

一方、性別違和のある男子の場合には、25%は小学校入学前に自覚があり、約半数が小学校卒業までに自覚したと回答している。性別違和に対する支援体制は、小学校の時点から必要であると推測された。なお、中塚ほか(2004)によれば、岡山大学を受診した性同一性障害 329 例において性別違和を自覚した年齢は、F T M では小学校入学前が多く、M T F では自覚が遅い。本調査では、広く性別違和を持つ当事者からの回答をインターネット経由で集めたため、先行研究において調査対象とされた G I D の専門病院を受診する当事者という限定された層とは異なる傾向が表れたからと考えられる。

(表 3) LGBTであるかもしれない気がついた年齢

	最頻値	最頻期間
性別違和のある男子	小学校入学前 (25%)	小学校入学前～小学校 6 年生
非異性愛男子	中学 1 年生 (25%)	小学校 6 年生～高校 1 年生
性別違和のある女子	中学 1 年生 (18%)	小学校 6 年生～高校 1 年生
非異性愛女子	中学 2 年生 (18%)	小学校 6 年生～高校 1 年生

5) カミングアウトの実態

学齢期におけるLGBT当事者がどのように自分自身のジェンダーやセクシュアリティについて周囲に明かしている(いわゆるカミングアウトをしている)のかを尋ねた。

(1) 周囲に話した人数(当時)について

まず小学生から高校生の中に、自分がLGBTであることをリアル(SNS等インターネット上でのやりとり以外のコミュニケーション/電話や手紙はリアルを含む)で話した相手の人数(当時)について質問したところ、「だれにも言えなかった」と回答したのは生物学的男子53%、生物学的女子31%と異なる傾向が見られた(図1)。

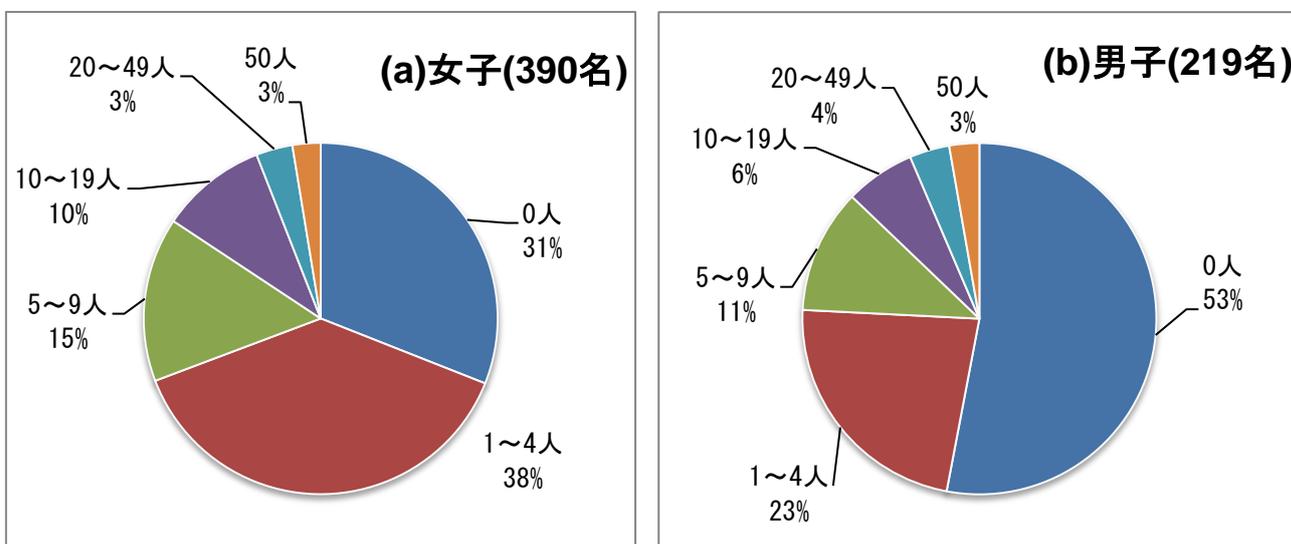


図1 小学生から高校生の中に自分がLGBTであることを話した人数(当時)

(2) 話した相手(当時)について

次に、小学生から高校生の中にどのような相手に話したか尋ねた。「周囲のだれかに話した」と回答した者の約6~7割は同級生を選び、また同級生でなくとも部活や同じ学校の友人など、同世代の友人がもっとも選ばれていた(表4)。学校の教師や両親など、いわゆる「大人」に話したと回答した者は「周囲のだれかに話した」と回答した非異性愛者の1割前後なのに対し、性別違和のある当事者では約2~3割と比較的多くみられ、教師の中では担任の教師、養護教諭、その他の教師の間に大きな差は認められず(担任か、養護教諭かといった)教師の役割よりも、生徒にとって話しやすそうかどうかによって左右されている可能性が示唆された。

父親や母親に話した者は、性別違和のある当事者で比較的多かった。性別違和を抱えている場合には、服装や立ち振る舞いなどのジェンダー表現に関わる部分やジェンダークリニック受診の必要性等から、周囲の大人に打ち明けざるをえない事情が背景にあることが

うかがえる。

なお、日高ほか(2013)では、同性愛の生徒と関わったことのある教員は7.5%、性同一性障害の生徒と関わったことのある教員は11.9%と少数であった。本調査でも(だれにも話せなかった者を含む)回答者全体に占める「教師に話した」割合は1割程度に過ぎず、学校現場において教師が当事者の存在を認識しにくい現状が改めて浮き彫りとなった。

(表4) 自分自身がLGBTであることを打ち明けた相手 (複数回答)

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
同級生	58%	61%	75%	77%
同年代の友人(部活の友人)	29%	36%	36%	36%
同年代の友人(その他同じ学校の友人)	13%	31%	25%	22%
同年代の友人(学外の友人)	42%	18%	24%	27%
担任の教師	29%	10%	17%	7%
養護教諭(保健室の教師)	23%	11%	22%	6%
その他の教師	13%	10%	21%	7%
父親	23%	7%	13%	5%
母親	58%	13%	31%	13%
きょうだい	13%	10%	16%	11%
親戚(親類)	6%	3%	7%	0%
近所の人	3%	0%	2%	0%
医師	29%	4%	11%	1%
カウンセラー	16%	19%	19%	7%
当事者団体の人	13%	28%	8%	3%
その他	13%	14%	11%	13%

(注) %は「だれかに話した」と回答した者に占める割合。

(3) 自分自身がLGBTであることを話さなかった理由

さらに、小学生から高校生の間に自分自身がLGBTであることを話さなかった理由についても質問した。どのグループでも最も多かったのは「理解されるか不安だった」という理由が6割に上った。非異性愛男子および性別違和のある男子の場合には「話すといじめや差別を受けそうだった」との回答も多く、それぞれ59%、60%にのぼった。学校文化においては「男子」の方が「女子」よりも、いじめや差別に対する不安が大きい(表5)。

(表5) 自分自身がLGBTであることを話さなかった理由 (複数回答)

	性別違和 のある男子	非異性愛 男子	性別違和 のある女子	非異性愛 女子
理解されるか不安だった	62%	67%	66%	59%
話すといじめや差別を受けそうだった	60%	59%	38%	33%
特に話す必要を感じなかった	34%	46%	45%	49%
どう話したらいいかわからなかった	51%	40%	46%	39%
その他の理由で話さなかった	14%	10%	9%	10%
話さなかった相手は特にいない	2%	1%	3%	1%

6) 学校の友人や同級生によるLGBTについての冗談やからかい

(1) LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした経験

小学校から高校時代の間に、学校の友人や同級生がLGBTについて不快な冗談を言ったり、からかったりしたことがあったかどうか尋ねたところ、回答者全体の84%は何らかの形でこれらを見聞きした経験があった。最も多かったのは「特定のだれかを指したものではないが見聞きした」62%で、「周囲のだれかを対象にしたものを見聞きした」「自分が不快な冗談やからかいを受けた」と続いた。「自分が不快な冗談やからかいを受けた」のは非異性愛男子、性別違和のある男子でそれぞれ44%、42%と比較的多かった。ゲイ・バイセクシュアル男性の約半数が「ホモ」「オカマ」といった言葉の暴力を受けたことがある(日高ほか2007)という既存調査にもほぼ合致する結果となった。

(表6) LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした経験 (複数回答)

	性別違和 のある男子	非異性愛 男子	性別違和 のある女子	非異性愛 女子
特定のだれかを指したものではないが見聞きした	66%	62%	62%	60%
周囲のだれかを対象にしたものを見聞きした	42%	47%	41%	41%
自分が不快な冗談やからかいを受けた	42%	44%	33%	14%
そのようなことはなかった	12%	15%	14%	20%

(2) LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした際の反応

また、LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした際の対応についても尋ねた(表7)。どのグループでも、「何もしなかった」が7~8割と最も多かった。それに次いで「自分がいじめられないよう一緒になって笑った」が多いが、特に非異性愛男子では38%と他のグループより多い。「やめてほしいと言った」のは全体の14%、学校の教師や親など周囲

の人に相談したのは数%程度に過ぎなかった。これらのことから多くの当事者は、LGBTをネタとした冗談やからかいに対して異議申し立てすることができずにいること、さらに場合によっては自己防衛のために一緒になって笑わざるを得ない環境にあることがわかった。

(表7) LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした際の対応 (複数回答)

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
何もしなかった	71%	68%	75%	87%
自分がいじめられないよう一緒に笑った	17%	38%	25%	30%
やめてほしいと言った	16%	14%	13%	14%
親に相談した	0%	2%	1%	0%
学校の教師に相談した	3%	1%	1%	8%
他の友人や同級生に相談した	3%	2%	2%	2%

7) いじめや暴力被害について

(1) いじめや暴力を受けた経験

いじめや暴力を受けた経験について尋ねたところ、全回答者の68%は「身体的暴力」「言葉による暴力」「性的な暴力」「無視・仲間はずれ」のいずれかを経験していた。内訳は「言葉によるいじめや暴力」(53%)が最も多く、次いで「無視・仲間はずれ」(49%)が多かった。

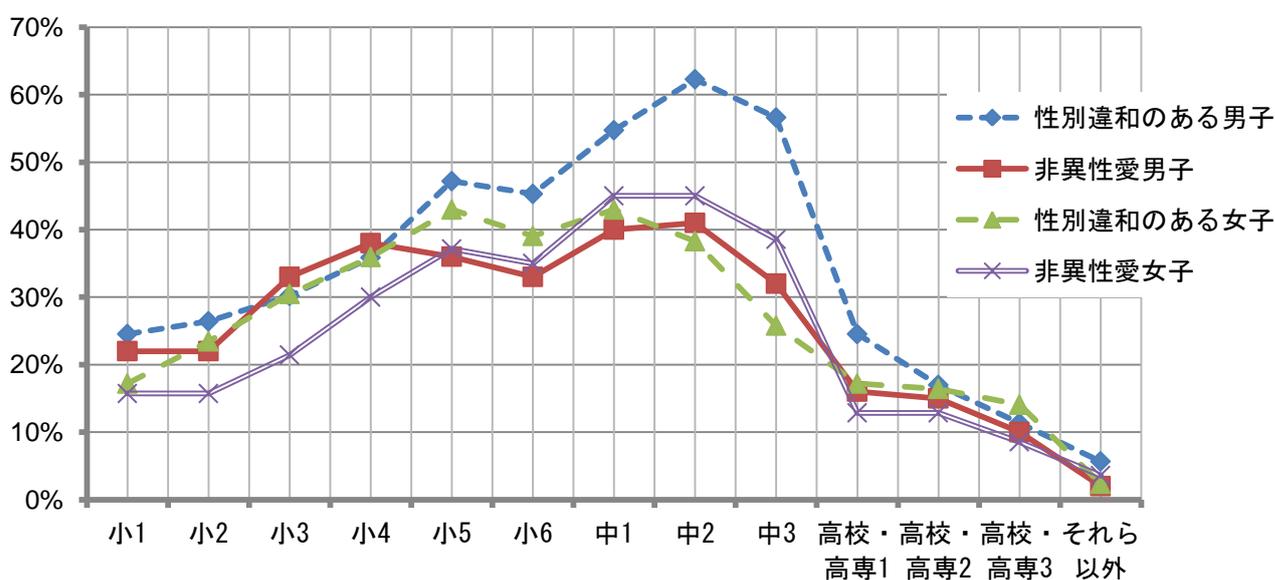
グループごとの比較では、性別違和のある男子がいじめや暴力被害のハイリスク層であることが明らかになった。性別違和のある男子ではいじめや暴力を経験した割合は82%にも上る。内訳は「言葉による暴力」(78%)が最多で、「身体的な暴力」は48%、「性的な暴力」も23%が経験していた。いじめ被害に遭う確率の高さに加えて、いじめの内容が深刻化しやすいことが示された。

(表8) いじめや暴力を受けた経験 (複数回答)

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
身体的な暴力	48%	23%	19%	10%
言葉による暴力	78%	53%	54%	45%
性的な暴力(服を脱がされる・恥ずかしいことを強制)	23%	12%	12%	7%
無視・仲間はずれ	55%	34%	51%	57%
上のような経験はない	18%	35%	30%	36%

(2) いじめや暴力を受けた時期

次に、いじめや暴力を受けた経験のある回答者に、それらを経験した時期について質問した。いじめや暴力は小学校低学年から学年を追うごとに次第に増加し、中学2年生をピークに下降している(図2)。文部科学省(2013)の『平成24年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』結果について」等でも、いじめの認知件数は小学校高学年から中学2年生の間に多いことが報告されているが、これらの結果と同様の結果となった。グループごとでの傾向の違いは特に認められなかった。



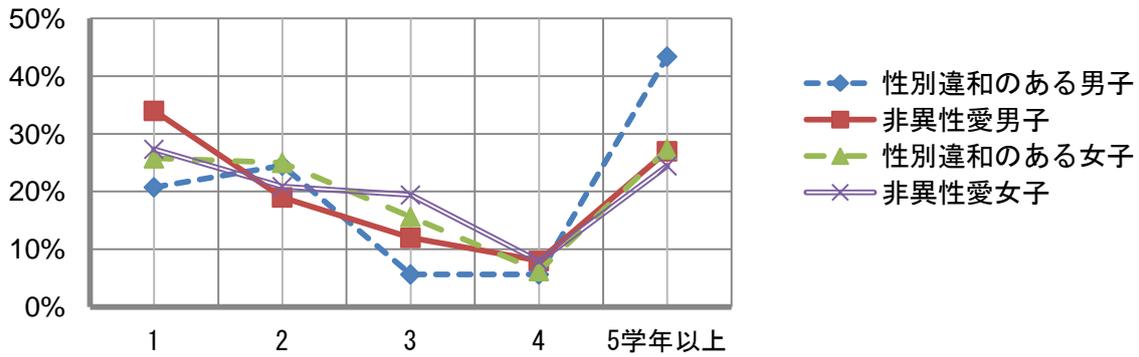
(図2) いじめや暴力にあった時期 (複数回答)

(注) %は「いじめや暴力にあった」と回答した者に占める割合

(3) いじめや暴力を受けた継続年数

いじめや暴力の継続年数についても分析した。いじめや暴力を受けた者のうち28%は1学年以内での被害だったが、72%が複数学年にわたりこのような被害を経験していた。

5学年以上にわたる被害を経験した者は、性別違和のある男子の実に43%が該当した。一般に、いじめは長期化するほど深刻な影響を及ぼすとされ、性別違和のある男子ではより深刻ないじめや暴力の状況があると推測される。

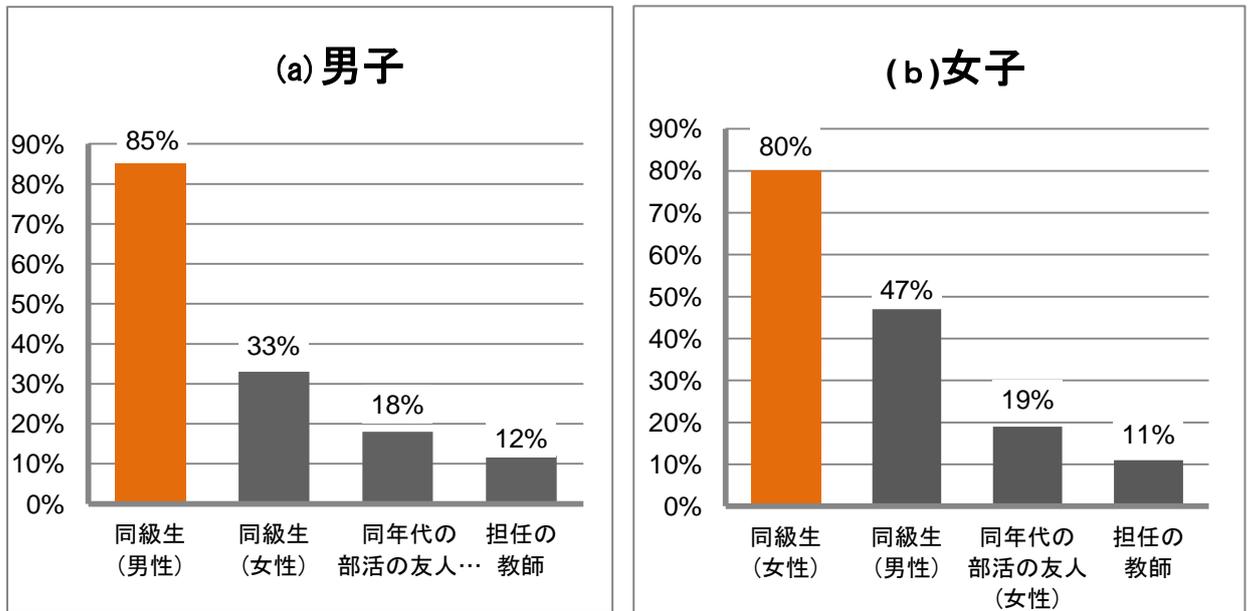


(図3) いじめや暴力を受けた述べる年数

(注) %は「いじめや暴力にあった」と回答した者に占める割合。

(4) いじめや暴力の加害者について

いじめや暴力をだれから受けたかについて尋ねたところ、男子と女子で傾向に違いがあった(図4)。どちらの場合でも、いじめや暴力をふるわれた相手として最も多かったのは「同性の同級生」(男子85%、女子80%)であり、ついで「異性の同級生」(男子33%、女子47%)であった。森田ほか(1999)によればいじめは同性の同級生によって行われることが最も多く、本調査でも同様の結果となった。また、担任の教師によるいじめや暴力を経験した者も12%存在した。藤川(2012)によれば、教師がいじめを容認する態度をとることは、いじめの深刻化に大きく作用する。教師の言動についても省みる必要性が示された。



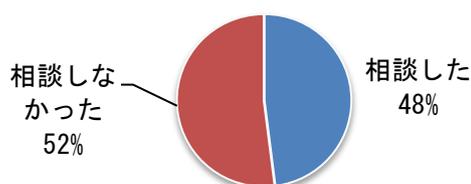
(図4) いじめや暴力をだれから受けたか (複数回答)

(注) %はいじめや暴力を受けたと回答した者に占める割合

(5) いじめや暴力を受けたときの相談相手

いじめや暴力を受けた際、だれかに相談したか、あるいは相談できなかったのかを尋ねた。もっとも多かったのは「だれにも相談しなかった」(52%)で、相談した場合には母親(29%)、担任の教師(19%)が多かった。同級生に相談した者は1割前後だった(図5)。

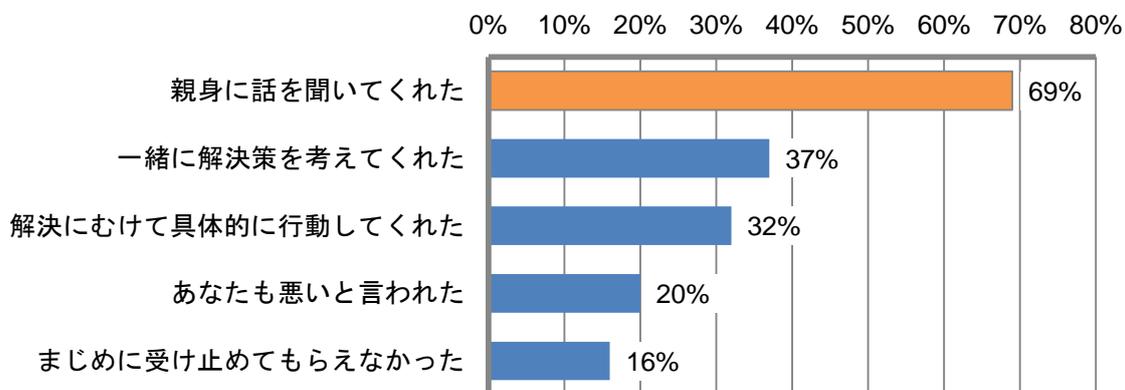
約半数の生徒はだれにも相談しないこと、まただれかに相談する際には「大人」を選んでいる傾向が見られた。



(図5) いじめや暴力をだれかに相談したか

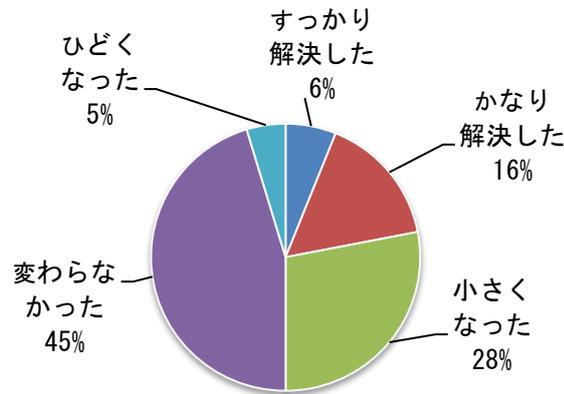
(6) 相談した際の相手の反応と、その後の経過

相談した際の相手の反応としては、「親身に話をきいてくれた」(69%)、「一緒に解決策を考えてくれた」(37%)、「解決にむけて具体的に行動してくれた」(32%)といずれのグループでもおおむね受容的なものが多く、「あなたも悪いと言われた」「まじめに受け止めてもらえなかった」等の否定的な反応は2割程度だった(図6)。



(図6) いじめや暴力を相談した際の反応 (複数回答)

一方で、相談したことによって問題がどのように変化したかを尋ねたところ、最も多かったのは「問題が変わらなかった」(45%)だった。その一方で「問題がすっかり解決した」「問題がかなり解決した」「問題が小さくなった」を合わせると全体の約半数は問題が多少なりとも改善されていることがわかった。相談したことでひどくなった例は5%に過ぎなかった(図7)。



(図7) いじめや暴力を相談した結果、問題がどうなったか

(7) いじめや暴力とLGBTであることの関連性

いじめや暴力を受けた経験と、自分自身がLGBTであることに関連性があると思うかどうかについても尋ねた。性別違和のある男子/女子、および非異性愛男子の場合には42%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。これに対し、非異性愛女子では同様の回答は19%であり、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が67%にのぼった。

(表9) いじめや暴力とLGBTであることの関連性

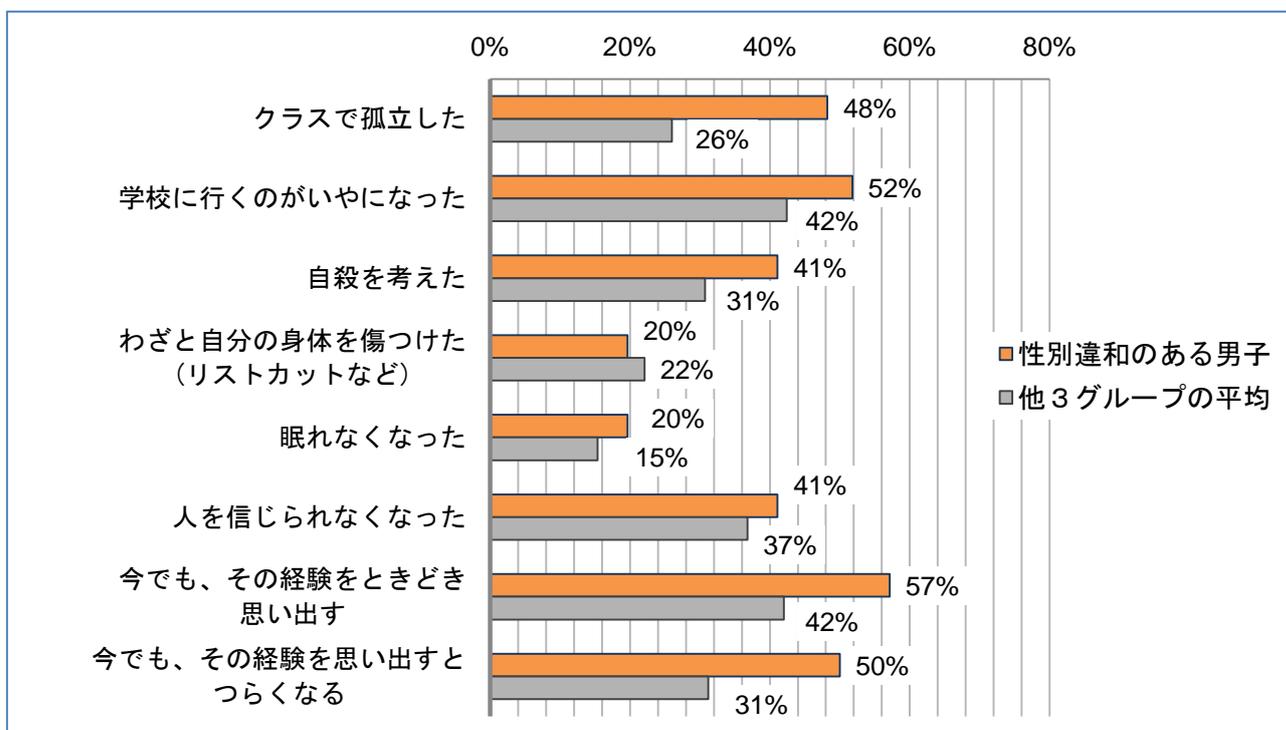
関連性があると思うか	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
そう思う*	45%	42%	47%	19%
わからない	20%	19%	19%	14%
そう思わない*	34%	38%	34%	67%

*「どちらかといえばそう思う」を「そう思う」に、「どちらかといえばそう思わない」を「そう思わない」に含めて表示した。

(8) いじめや暴力を受けたことによる影響

いじめや暴力を受けた経験がどのような影響を及ぼしたのかを尋ねた。被害を受けた結果、回答者全体では「学校に行くのがいやになった」(43%)「人を信じられなくなった」(37%)「クラスで孤立した」(28%)などのマイナスの影響があり、さらには「今でも、その経験をとときき思い出す」(44%)、「今でも、その経験を思い出すとつらくなる」(33%)など、いじめや暴力を受けたことがその後の人生にも心の傷として残っている回答者が少なくなかった。また、「自殺を考えた」(32%)、「わざと自分の身体を傷つけた(リストカットなど)」

(22%) など、いじめや暴力が希死念慮や自傷行為にも少なからず影響を及ぼしていることが明らかとなった。グループごとの比較では、特に性別違和のある男子で「クラスで孤立した」(48%)、「今でもその経験を思い出すとつらくなる」(50%) と、より深刻な影響を受けている傾向が示された。



(図8) いじめや暴力を受けたことによる影響 (複数回答)

5. 考察

本調査は、国内におけるLGBTの学校生活に関する体験を多数の当事者から集め、今後の望ましい施策を検討する上での基礎資料を得ることを目的として実施した。海外ではLGBTの生徒に対するいじめの調査等がなされているが(Hunt and Jensen,2006)、国内における情報は少ない。調査結果からは自分自身がLGBTかもしれないと気がついた学年や、そのことを話した相手、いじめの実態等、これまで国内で正確な状況が把握しにくかった部分について、インターネット調査ゆえに回答者が偏る可能性はあったものの、ひととおりの情報を得ることができた。

調査の前半では、LGBTであることの話しにくさが存在し、特に男子の場合にはいじめや差別に対する恐怖心をより感じやすい傾向にあること、またLGBTに対する差別的な冗談やからかいが頻繁に体験されていることが明確になった。一方で、本調査では、子どもたちが自分自身のことを打ち明ける相手(キーパーソン)も大半は同級生であることがわかった。教師など「周囲の大人」に打ち明ける当事者はかなり少数のため、大人たちから見えない場面で、当事者の子どもは数人程度の同級生にカミングアウトを行い、受容

や拒絶を体験している。同級生がLGBTについてどのような情報やメッセージをこれまで受け取ってきたかにより、受容の中身は大きく変化する。教育行政および学校現場は、教師に打ち明けるLGBTの生徒が現れるのを待つのではなく、日頃からLGBTに関する正しい情報や、肯定的なメッセージを発信する必要があるだろう。

調査の後半では、いじめや暴力被害に関して質問を行った。加害者が「同性」の同級生であることや、いじめや暴力が小学校高学年～中学2年生の間に起きやすいこと、相談した場合には比較的解決に向かうことなど、既存のいじめ調査結果との共通点が多かった。一方で、性別違和のある男子は被害体験の長期化や、被害内容のエスカレート（性的いじめを含む）が見られ、クラス内での孤立も著しかった。既存の調査と比較しても、より深刻ないじめ被害に遭いやすいハイリスク層としてLGBTを重視し支援する必要性が改めて強く示された。

今回は主に関東地方で小学校～高等学校を過ごした者のみを対象としたが、今後はより規模を拡大し、全国的な調査を行い、地域的な差異についても分析して施策に活かしたい。

参考文献

森田洋司ほか 1999. 『日本のいじめ』 金子書房

文部科学省 2013. 「『平成 24 年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』 結果について」 <http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1341728.htm>

中塚幹也ほか 2004 「思春期の性同一性障害症例の社会的, 精神的, 身体的問題点と医学的介入の可能性についての検討」『母性衛生』 45(2): 278-284.

藤川大祐 2012. 『いじめで子どもが壊れる前に』 角川書店 (角川 one テーマ新書)

日高庸晴ほか 2007. REACH Online 2007 厚生労働省エイズ対策研究事業

<<http://www.gay-report.jp/2007/index.html>>

日高庸晴ほか 2013. 子どもの“人生を変える”先生の言葉があります. 厚生労働省エイズ対策研究事業 <http://health-issue.jp/teachers_lgbt_survey.pdf>

Hunt, Ruth and Johan Jensen. 2006. *The School Report: The Experiences of Young Gay People in Britain's Schools.*

<http://www.stonewall.org.uk/documents/school_report.pdf>

LGBTの学校生活に関する実態調査

<調査の目的>

国内におけるLGBTの学校生活に関する調査は依然として少ないため、幅広い方の体験を集め、今後の望ましい施策を検討し、政府や地方自治体などに改善を働きかけることを目的として、本調査を実施します。いただいた回答はこれ以外の目的に使用することはありません。

(この調査は平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業の助成を受けて実施します)。

<調査対象者>

次の3つの条件すべてに当てはまる方

- ・10歳～35歳以下の方(2013年末時点)
- ・小学生から高校生の間、主に関東地方(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)で過ごされた方
- ・LGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー・性同一性障害など)、当事者およびそうかもしれないと思っている方

2013年12月31日まで実施しています。

全20問で、10分程度で終わりますので、ぜひご協力ください。

※アンケート結果は個人が特定されない形で集計し、2014年2月以降に下記のHPで公開させていただきます。

【実施・問い合わせ先】

いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン

<http://ameblo.jp/respectwhiteribbon>

アンケート回答期限：2013-12-31

設問 1 あなたの年齢を教えてください

今年12月末でのあなたの年齢を教えてください

*当てはまるものを選択 必須

- ・10～14歳 [1%] ・15～19歳 [27%] ・20～24歳 [41%]
- ・25～29歳 [17%] ・30～35歳 [14%] ・36歳以上 [17名/対象外]

設問 2 あなたの性自認を教えてください

あなたの性自認(自分が感じている自分の性別)を教えてください

*もつとも当てはまるものを選択 必須

- ・男性 [37%] ・女性[41%] ・その他[13%] ・わからない[9%]

設問 3 あなたの性的指向を教えてください

あなたの性的指向(恋愛や性愛の対象)を教えてください

*もつとも当てはまるものを選択 必須

- ・同性愛(レズビアン、ゲイ) [42%] ・異性愛 (ヘテロセクシュアル) [9%]
- ・両性愛/全性愛 (バイセクシュアル/パンセクシュアル) [40%]
- ・無性愛(アセクシュアル/エイセクシュアル)<男女どちらも恋愛や性愛の対象ではない> [3%]
- ・わからない [5%]

設問 4 あなたの生物学的性別を教えてください

あなたの生物学的性別(生まれた時の体の性別)を教えてください

*もつとも当てはまるものに回答 必須

- ・男性 [36%] ・女性 [64%] ・その他/無回答 [6名/対象外]

設問 5 あなたの小学・中学・高校時代の主な居住地を教えてください

あなたの小・中・高校時代の主な居住地を教えてください

*もつとも当てはまるものを選択 必須

- ・東京都[33%] ・神奈川県[23%] ・千葉県[15%] ・埼玉県[13%]
- ・栃木県[4%] ・群馬県[5%] ・茨城県[7%] ・その他[71名/対象外]

設問 6 あなたが自分はLGBTであるかもしれないと気がついた年齢を教えてください

あなたが自分はLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー・性同一性障害など)であるかもしれないと気がついた年齢(学年)を教えてください

*もつとも当てはまるものを選択 必須

- ・小学生より前[9%] ・小学校1年生[1%] ・小学校2年生[2%] ・小学校3年生[3%]

- ・小学校 4 年生[4%] ・小学校 5 年生[6%] ・小学校 6 年生[6%]
- ・中学校 1 年生[17%] ・中学校 2 年生[14%] ・中学校 3 年生[8%]
- ・高校、高専 1 年生[11%] ・高校、高専 2 年生[8%] ・高校、高専 3 年生[3%]
- ・高専 4 年生[0%] ・高専 5 年生[0%] ・短大、大学、専門学校に在学時[7%]
- ・学校を終えたあと[1%] ・上のいずれも該当しない[0%]

設問 7 あなたが、自分が L G B Tであることをリアルで話した相手の人数(当時)を教えてください

あなたが小学生から高校生の間に、自分が L G B Tであることをリアル(※)で話した相手の人数(当時)を教えてください

(※) リアル：インターネット上でのやりとり(SNS 等)以外のコミュニケーション。電話や手紙はリアルに含む

*もともと当てはまるものを選択 必須

- ・だれにも話さなかった[39%] ・ 1~4 人[33%] ・ 5~9 人[14%]
- ・ 10~19 人[9%] ・ 20~49 人[3%] ・ 50 人以上[3%]

設問 8 どのような相手に話しましたか(当時)

(設問 7 で話した相手があった場合のみ回答)どのような相手に話しましたか(当時)

* 複数回答可

- ・同級生[72%] ・ 同年代の友人(部活の友人)[35%]
- ・同年代の友人(その他同じ学校の友人)[24%]
- ・同年代の友人(学外の友人)[26%] ・ 担任の教師[13%]
- ・養護教諭(保健室の教師) [14%] ・ その他の教師[13%] ・ 父親[10%]
- ・母親[23%] ・ きょうだい[13%] ・ 親戚(親類)[3%] ・ 近所の人[1%]
- ・医師[8%] ・ カウンセラー[15%] ・ 当事者団体の人[10%] ・ その他[12%]

設問 9 話さなかった人がいた場合、その理由はなぜでしたか (当時)

あなたが L G B Tであることを話さなかった人がいた場合、その理由はなぜでしたか (当時)

* 複数回答可 必須

- ・特に話す必要を感じなかった[45%] ・ 理解されるか不安だった[63%]
- ・話すといじめや差別を受けそうだった[44%] ・ どう話したらいいかわからなかった[43%]
- ・その他の理由で話さなかった[10%] ・ 話さなかった相手は特にいない[1%]

設問 10 学校の友人や同級生による L G B Tについての冗談やからかい

小学校から高校時代の際に、学校の友人や同級生が L G B Tについて不快な冗談

を言ったり、からかったりしたことはありましたか？

* 複数回答可 必須

- ・自分が冗談やからかいを受けた[30%]
- ・周囲のだれかを対象にしたものを見聞きした[43%]
- ・特定のだれかを指したものではないが見聞きした[62%]
- ・そのようなことはなかった[16%]

設問 11 設問 10 のようなとき、どのように対処しましたか？

(設問 10 の体験があった場合のみ回答)設問 10 のようなとき、どのように対処しましたか?(当時) * 複数回答可

- ・やめてほしいと言った[14%]
- ・自分がいじめられないよう一緒になって笑った[29%] ・学校の教師に相談した[2%]
- ・親に相談した[1%] ・他の友人や同級生に相談した[3%] ・その他の人に相談した[2%]
- ・何もしなかった[76%] ・その他[10%]

設問 12 あなたには以下の経験がありますか？

あなたには小学生から高校生の中に、だれかに次のようなことをされた経験がありますか？

*複数回答可 必須

- ・身体的な暴力を受けた[20%] ・言葉による暴力を受けた[53%]
- ・性的な暴力(服を脱がされる、恥ずかしいことを強制させられるなど)を受けた[11%]
- ・無視されたり仲間はずれにされたりした[49%] ・上のような経験はない[32%]

設問 13 設問 12 の体験はいつ頃ありましたか？

(設問 12 の体験があった場合のみ回答)設問 12 にあげた体験はいつ頃ありましたか？

*複数回答可

- ・小学校 1 年生[19%] ・小学校 2 年生[21%] ・小学校 3 年生[28%]
- ・小学校 4 年生[34%] ・小学校 5 年生[40%] ・小学校 6 年生[37%]
- ・中学校 1 年生[44%] ・中学校 2 年生[44%] ・中学校 3 年生[35%]
- ・高校、高専 1 年生[16%] ・高校、高専 2 年生[15%] ・高校、高専 3 年生[11%]
- ・高専 4 年生[0%] ・高専 5 年生[0%] ・それら以外の時期[3%]

設問 14 設問 12 の体験はだれから受けましたか？

(設問 12 の体験があった場合のみ回答)設問 12 の体験はだれから受けましたか？

* 複数回答可

- ・同級生(男性)[61%] ・同年代の男性の友人(部活の友人)[9%]
- ・同年代の男性の友人(その他同じ学校の友人)[10%]

- ・ 同年代の男性の友人(学外の友人)[4%]
- ・ 同級生(女性)[63%] ・ 同年代の女性の友人(部活の友人)[14%]
- ・ 同年代の女性の友人(その他同じ学校の友人)[11%]
- ・ 同年代の女性の友人(学外の友人) [1%]
- ・ 担任の教師[12%] ・ 養護教諭(保健室の教師)[0%] ・ その他の教師[7%]
- ・ 父親[9%] ・ 母親[8%] ・ きょうだい[7%] ・ 親戚(親類)[1%] ・ 近所の人[1%]
- ・ 医師[0%] ・ カウンセラー[1%] ・ 当事者団体の人[1%] ・ その他[6%]

設問 15 設問 12 の体験を、だれかに相談しましたか?

(設問 12 の体験があった場合のみ回答)設問 12 の体験を、だれかに相談しましたか?(当時)

* 複数回答可

- ・ 同級生(男性)[4%] ・ 同年代の男性の友人(部活の友人)[2%]
- ・ 同年代の男性の友人(その他同じ学校の友人)[2%]
- ・ 同年代の男性の友人(学外の友人)[2%]
- ・ 同級生(女性)[11%] ・ 同年代の女性の友人(部活の友人) [4%]
- ・ 同年代の女性の友人(その他同じ学校の友人) [4%]
- ・ 同年代の女性の友人(学外の友人)[2%]
- ・ 担任の教師[19%] ・ 養護教諭(保健室の教師)[6%] ・ その他の教師[7%]
- ・ 父親[7%] ・ 母親[29%] ・ きょうだい[3%] ・ 親戚(親類)[3%] ・ 近所の人[0%]
- ・ 医師[4%] ・ カウンセラー[8%] ・ 当事者団体の人[0%] ・ だれにも相談しなかった[52%]

設問 16 設問 15 で相談した場合、相手の反応はどうでしたか?

(設問 15 で相談した場合のみ回答)相手の反応はどうでしたか?(当時)

* 複数回答可

- ・ 親身に話を聞いてくれた[69%] ・ 一緒に解決策を考えてくれた[37%]
- ・ 解決にむけて具体的に行動してくれた[32%] ・ 私にはわからないと言われた[4%]
- ・ まじめに受け止めてもらえなかった[16%] ・ あなたも悪いと言われた[20%]
- ・ 私に相談しないでと言われた[1%] ・ 相談した相手からよそよそしくされた[3%]
- ・ 相談した相手から言いふらされた [4%]

設問 17 設問 15 で相談した結果、どうになりましたか?

(設問 15 で相談した場合のみ回答)設問 15 で相談した結果、どうになりましたか?(当時)

*もともと当てはまるものを選択

- ・ 問題がすっかり解決した[6%] ・ 問題がかなり解決した[16%]
- ・ 問題が小さくなった[28%] ・ 問題が変わらなかった [45%] ・ 問題がひどくなった [5%]

設問 18 設問 12～17 にあげた問題は、あなたがLGBTであることに関連していると思
いますか? 必須

- ・ と思う[15%] ・ どちらかといえばと思う[14%] ・ どちらともいえない[14%]
- ・ どちらかといえばそうは思わない[8%] ・ そうは思わない[28%]
- ・ 問題は起きていない[21%]

設問 19 以上にあげた問題によってどのような影響がありましたか? * 複数回答可

- ・ 友達が減った[17%] ・ クラスで孤立した[28%] ・ 部活をやめることになった[6%]
- ・ 学校に行くのがいやになった[43%] ・ 学校を休みがちになった[19%]
- ・ 不登校になった[12%] ・ 別の学校に転校した[2%] ・ 退学した[2%]
- ・ 自殺を考えた[32%] ・ わざと自分の身体を傷つけた(リストカットなど)[22%]
- ・ 眠れなくなった[16%] ・ 人を信じられなくなった[37%]
- ・ ひきこもりがちになった[16%] ・ 勉強への意欲を失った[16%]
- ・ 今でも、その経験をとまどき思い出す[44%]
- ・ 今でも、その経験を思い出すとつらくなる[33%]
- ・ 今ふりかえてみて、その後の人生にマイナスの影響があった[25%]
- ・ 今ふりかえてみて、かえてその後の人生にプラスになった[23%]
- ・ 特に影響はなかった[18%]

設問 20 今後のインタビュー協力について

学校でLGBTの生徒に対して適切な支援を行うよう、政府や地方自治体等に要望してい
くために、もう少し詳しくお話しを聞かせていただける方を探しています。今後のインタ
ビューに協力してもよいという場合は連絡先を教えてください。

- ・ メールアドレス
- ・ お名前(仮名で可)

ご協力ありがとうございました。